

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：17501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16907

研究課題名(和文) 守護系戦国大名豊後大友氏と室町幕府・朝廷

研究課題名(英文) Relationship of Bungo Otomo Clan, a Sengoku Daimyo with Syugo Background, with Muromachi Shogunate and the Imperial Court

研究代表者

八木 直樹 (YAGI, NAOKI)

大分大学・福祉健康科学部・准教授

研究者番号：00526684

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、戦国大名大友氏と室町幕府・朝廷との関係を明らかにすることである。成果として、戦国期の大友氏当主が室町幕府・朝廷から獲得した守護職などの幕府官職と官位などの栄典について、彼らがいつ何を獲得したのかを明確にした。大友義長は3つ、大友義鑑と大友義鎮は8つの幕府官職と栄典を獲得していた。これらには、大友氏が申請のもの(主に守護)と幕府側より与えられたもの(主に栄典)があった。戦国大名大友氏と室町幕府・朝廷との交渉の頻度は、保守的なイメージとは異なり多くはなかった。本研究により遠国の戦国大名と室町幕府・朝廷との関係のあり方を提示することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、戦国大名研究は東国大名の成果が多く、戦国大名と室町幕府・朝廷の関係を検討した研究には畿内近国の事例が多い。九州大名大友氏の視点から室町幕府・朝廷との関係を検討した本研究の成果は、多様な存在形態を示す戦国大名のケーススタディとして貴重である。また、歴代大友氏当主が獲得した栄典、大友義鎮の生母、大友義統の元服時期といった本研究で確定した基礎的事項は、今後の地域における大友氏研究・戦国史研究の進展に寄与できると考える。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the relationship of Otomo Clan, a Sengoku Daimyo, with Muromachi Shogunate and the Imperial Court. Through research, the study identified when the heads of the family were granted the position of Syugo and other Shogunate positions and awards by the Muromachi Shogunate and the Imperial Court throughout the age of provincial wars. (Otomo) Yoshinaga received three Shogunate positions and awards, while Yoshiaki and Yoshishige obtained eight such titles. These titles consist of ones the Otomo family requested (mainly Syugo) and the others granted by the Shogunate (mainly awards). Negotiations for such titles between the Otomos and the Shogunate and the Imperial Court were not as frequent as one may typically expect for a conservative Sengoku Daimyo. The study revealed the nature of relationship of a Sengoku Daimyo, who was geographically remote from the nation's center, with Muromachi Shogunate and the Imperial Court.

研究分野：日本中世史

キーワード：戦国大名 守護 室町幕府 朝廷 大友氏 守護系戦国大名 官位

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

16世紀の日本列島各地に誕生し、一国から数ヶ国を支配した地域権力は、「戦国大名」と称される。戦国大名は、自らの権力によって独自の支配を行っていたにもかかわらず、室町幕府・朝廷という中央政権との関係から完全に自由ではなかった。伝統的な守護家だけでなく、戦国期に勢力を拡大した新興の戦国大名も、幕府が任命する守護職を欲し、また朝廷が与える官職・位階(官位)を求めた。こうしたものは、一種の栄典にすぎないとの見解もあるが、戦国大名の権力編成における実利も無視できない。ただし、これまでの研究では、守護職任命・栄典獲得による戦国大名の支配のあり方の変化については、さほど検討されていない。戦国大名にとって守護職などの幕府官職任命と官位などの栄典獲得の意味は、いまだ古くて新しい問題なのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、守護を出自とする戦国大名(「守護系戦国大名」)の豊後大友氏を研究対象に、大友氏が獲得した守護職などの幕府官職と官位などの栄典に着目し、その獲得交渉の過程と背景を検討することにより、戦国大名と室町幕府・朝廷との関係を明らかにすることである。豊後大友氏は、守護系戦国大名としては稀有な家文書「大友家文書」「大友家文書録」を伝来している。こうした豊富な大友氏側の史料と、京都の室町幕府・朝廷側の記録類双方の史料を対照させていくことが可能である。大友氏が獲得した守護職などの幕府官職と官位などの栄典を分析し、保守的・伝統的なイメージがある守護系戦国大名と室町幕府・朝廷との具体的関係を明らかにすることが本研究の課題である。

3. 研究の方法

(1) 室町幕府・朝廷が所在した京都の幕府関係者、公家、僧侶の記録類から豊後大友氏が登場する事例を収集し分析する。

研究費で購入した主な史料集は、以下のものである。

『兼見卿記』、『言継卿記』、『薩戒記』、『碧山日録』、『言国卿記』、『臥雲日件録抜尤』、『二水記』、『後法成寺関白記』、『蔗軒日録』、『大日本古文書 蜷川家文書』、『室町幕府文書集成』、『奉行人奉書篇』、『大系真宗史料』、『文書記録編』、『戦国遺文』三好氏編・六角氏編、『豊臣秀吉文書集』、『織田信長文書の研究』

このほかに、申請者が所持している史料集・所属機関の図書館が所蔵している以下の史料集からも史料収集を行った。

『満濟准后日記』、『看聞日記』、『建内記』、『蔭涼軒日録』、『大乘院寺社雑事記』、『実隆日記』、『御湯殿上日記』、『多聞院日記』、『斎藤基恒日記』、『蜷川親孝日記』、『蜷川親俊日記』、『大館常興日記』などの古記録

(2) 大友領国とその周辺大名領国(九州の島津氏・龍造寺氏・少弐氏・菊池氏・伊東氏・有馬氏、中国地方の大内氏・毛利氏、四国の河野氏・一条氏・長宗我部氏など)を対象に、室町幕府・朝廷関係の史料を収集し分析する。

研究費で購入した主な史料集は、以下のものである。

九州地方：『鹿児島県史料 旧記雑録拾遺家わけ』、『飯塚市史』、『日本関係海外史料 イエズ会日本書翰集』

中国地方：『戦国遺文』大内氏編、『新鳥取県史』古代中世、『山口市史』、『防府市史』、『久世町史』、『岡山県の中世文書』

このほかに、申請者が所持している史料集・所属機関の図書館が所蔵している以下の史料集からも史料収集を行った。

『増補訂正編年大友史料』、『大宰府・太宰府天満宮史料』、『豊後国荘園公領史料集成』、『西国武士団関係史料集』などの大友氏関係史料集、『大分県史料』、『熊本県史料』、『佐賀県史料集成』、『福岡市史』、『新熊本市史』などの九州各県の自治体史、『山口県史』、『広島県史』などの中国地方の自治体史

(3)(1)・(2)の作業で収集した史料を東京大学史料編纂所、公共図書館などが所蔵している写真帳・影写本・謄写本・マイクロフィルムなどで確認するとともに、刊本史料集に未収録の未活字史料を収集する。

(4)(1)・(2)(3)で収集した中央の史料と大友領国とその周辺大名領国の関係史料を突き合わせていき、戦国大名大友氏と室町幕府・朝廷との関係について検討する。

4. 研究成果

(1) まず、戦国期の大友氏当主ごとに室町幕府・朝廷から獲得した守護職などの幕府官職と官位などの栄典を整理した。各当主が室町幕府・朝廷から獲得した官職・栄典は以下のとおりである。大友義長は 豊後国・筑後国・豊前国守護職、「義」の偏諱授与、「修理大夫」の官途

の3つである。大友義鑑は「修理大夫」の官途、「義」の偏諱授与、「御紋之儀」、「従四位下」叙位、「従四位上」上階、嫡男義鎮への「義」の偏諱授与、二男晴英への「晴」の偏諱授与、肥後国守護職の補任の8つである。また、義鑑は申請のみで獲得できなかった「三位」上階申請と九州探題の「探題職御礼之儀」問い合わせの事例があり、特に中央志向が強かったと結論付けた。大友義鎮は肥前国守護職の補任、豊前・筑前両国守護職の補任、「九州探題職」補任、「大内家督」承認、「紋」の「一統」承認、「左衛門督」の官途、「御相伴」衆、嫡子義統への「義」の偏諱授与の8つである。なお、戦国期歴代大友氏当主は朝廷から官位を授与されているが、室町幕府を介さずに大友氏が直接朝廷から官位を獲得した事例は確認できなかった。

(2) 上述のように戦国期の当主は幕府・朝廷から様々な官職・栄典を獲得していたが、その種類によって獲得にみせる意欲に差がみられた。大友氏が積極的に獲得を働きかけたのが、幕府が補任する守護職である。対照的に、朝廷から叙位任官される官位については、義長・義鎮には積極的に獲得しようとする意欲はみられず、義長の「修理大夫」と義鎮の「左衛門督」は將軍主導で与えられた可能性を指摘した。

(3) 義鎮が獲得した肥前・筑前・豊前守護職、「九州探題職」、「大内家督」に関しては、義鎮がそれを領国内外に喧伝した形跡は確認できなかった。義鑑の肥後国守護職、義鎮の肥前・豊前・筑前守護職獲得の目的は、旧領国主であった菊池氏・少弐氏・大内氏の跡を大友氏が継承したことを対外的に主張する正統性を確保し、かつそれを他者に利用させないためであったと指摘した。

(4) 戦国大名大友氏と室町幕府・朝廷との交渉・交流の頻度は、守護出自という保守的・伝統的なイメージとは異なり、それほど多くはなく、他の遠国大名と同程度であった結論した。

従来、戦国大名と室町幕府・朝廷との関係を検討した事例には、畿内近国大名の事例が多かった。九州の遠国大名である大友氏を事例とした本研究の成果は、多様な存在形態を示す戦国大名のケーススタディとして貴重である。また、守護を出自とする戦国大名と室町幕府・朝廷との関係のあり方、特に16世紀半ば以降における戦国大名大友氏最盛期の当主義鎮(宗麟)の具体的な対幕府交渉の特徴を提示した点も本研究の重要な成果であると考えられる。

なお、これらの研究成果をまとめた論文「戦国大名大友氏と室町幕府」は、申請者の著書(タイトル・刊行時期未定)に収録予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 八木直樹	4. 巻 129編5号
2. 論文標題 2019年の歴史学界 回顧と展望 日本（中世） 五 戦国期の政治・法制（東国・畿内）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 黒嶋敏・金子拓・畑山周平・八木直樹・山田貴司・田中信司・播磨良紀・福原圭一・谷口央	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 296(77-113)
3. 書名 戦国合戦 大敗 の歴史学	

1. 著者名 鹿毛敏夫・坪根伸也・五十川雄也・柴田圭子・荒木和憲・佐藤道文・林田崇・長直信・越智淳平・八木直樹・松原勝也・山田貴司・橋本雄・吉田寛・窪田頌・沓名貴彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 344(195-216)
3. 書名 戦国大名大友氏の館と権力	

〔産業財産権〕

〔その他〕

大分大学福祉健康科学部教員紹介ホームページ
<http://www.fwhs.oita-u.ac.jp/teachers/%E5%85%AB%E6%9C%A8%E3%80%80%E7%9B%B4%E6%A8%B9/>

researchmap : 八木直樹
<http://researchmap.jp/n-yagi>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----